

令和5年6月1日（木）午後1時から 新居高校第一応接室

参加者（学校）：校長、副校長、事務長、全日制教頭、定時制教頭

学校運営協議会委員：片山 雅博 委員、中島 登代子 委員、○井原 裕司 委員

谷 和憲 委員、鈴木 勝士 委員、○小笠原 昌之 委員 ○は新任委員

#### ◎校長挨拶

地域の方に大事にされることにより、子供たちが良い方向に変化する。学校運営協議会は地域との連携を図るよい機会であるので、今年度もよろしくお願ひしたい。

#### ◎学校運営協議会委員任命

#### ◎参加者自己紹介

#### ◎校内見学 全日制文化祭準備の様子を見学

#### ◎コミュニティスクール（学校運営協議会制度）の説明

地域にある学校としての使命を考える。

どんな協力が得られるか検討したい、

#### ◎協議

##### ○学校経営計画について

校 長・外部との関わりを増やす機会を作りたい。

・ホームページによる広報活動を充実させたい。

・同窓会、PTAの活動は新居高校の財産。コロナ5類移行となり再び充実させたい。

##### ○広報、学校PRについて

鈴木委員・湖西にある学校だからこそ学べることのアピールをすべきである。湖西市、湖西市の企業との具体的な連携なども広報すべきである。

谷 委員・学校案内は見た人が学校に行きたくなるような案内にすべき。学校案内からHPに移動できるようなリンク、QRコードの作成を盛り込むべきである。

・HPを管理する人が不足するのであれば生徒の参加はどうか。

中島委員・子どもたちが見るのは「学校案内」ではなく、インターネット情報である。中学生向けを意識してツイッターなどを利用していただきたい。

学 校・現状のHPは知りたい情報が取り出しにくい状態、HP作成に長けた人の雇用がしたい。しかし、県から与えられた容量は500MBしかなく、十分なものは作れない。学校選択の媒体について早急に調査していく。

片山委員・HPが難しければ、SNS系のものをうまく使う。インスタグラムやフェイスブックなどが適している。写真と簡単な説明だけならトラブルを避けられる。

○コミュニティスクール、地域との連携について

小笠原委員・コロナの後遺症がPTAの活動にも現れている。かつての新居高校は保護者が学校に多くかかわっており、親と学校と子どもの距離が近かった。これからその距離の縮め方を模索していきたい。

校長・日本の少子化問題は深刻だが、本校も同様で、この3年間に急激に学校が小さくなっている。その事によって生じている。学校の課題解決のためには、コミュニティスクールによって、今以上に地域とつながり、保護者や外部機関と色々な取組みが行われることを期待している。

中島委員・コミュニティスクールを成功させるカギは、地域の人にどれだけやる気になってもらうか、ということである。地域の人にとっても「大切な自分達の学校」という意識を高める機会でもあるので、地域の人を積極的に活用することで、教育の場を充実させるチャンスでもある。学校でも地域の技術、知識を生かす取り組みをお願いしたい。

学校・義務教育のほうが地域に密着しており、外部の人が中に入りやすい。高校の現状は地域との連携を求め外に出るケースが多い。中に入ってもらう方法はないか。

片山委員・新居町は学校に入っていくことが当たり前の地域であったが、時代の変化とともに学校との関係がドライになってきている。

谷委員・地域での声掛けも不審者扱いされてしまうこともあり、地域の関係が希薄になってきている。コミュニティの関係性も課題である。

鈴木委員・高校の子どもたちは学校でも外でも素晴らしい挨拶をしてくれる。

○その他、防災関係

小笠原委員・3月に津波警戒地域に認定され、高校が一次避難場所に指定されている。訓練や計画作成の義務もあるので、地域との連携のきっかけになるのではないかと。

谷委員・子どもたちが町の人を守る。学校で町の人々を守る。そのことで子供たちが地域の財産にもなる。今後は地域を守るための訓練も必要である。